

添付資料の目次

1 . 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	2
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	3
2 . サマリー情報(その他)に関する事項	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
3 . 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 継続企業の前提に関する注記	8
(4) セグメント情報等	8
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間(平成23年4月1日~平成23年12月31日以下「当第3四半期」)における日本経済は、東日本大震災発生直後に生産活動などが大幅に低下いたしました。その後のサプライチェーンの回復、生産設備の復旧に伴い、景気は着実に回復してまいりました。しかしながら、欧州の金融不安、米国の景気減速などの世界経済の先行き不安に加えて、円高やタイの洪水などによる国内生産や輸出への影響が懸念され、景気の先行きは不透明なものとなっております。

物流業界におきましては、震災の発生による生産活動の落ち込みから物量が大幅に落ち込みました。その後の復旧に伴って物量は回復しておりますが、景気回復の動きが弱まっていることや、震災復興需要の規模や発生時期が不透明なことから、予断を許さない状況が続いております。

このような環境の中、当社グループは、お客さまの震災復旧・復興対応のご支援を経営の最重要課題と位置付けるとともに、昨年度にスタートさせた「Moving Global」をコーポレートスローガンとする、中期経営三ヵ年計画の2年目の年として、国内外で積極的な経営を進めてまいりました。

10月には千葉県に「野田第2PDセンター」を開設し、関東地区の物流サービスを強化したほか、11月にはケミカル製品の安定輸送と事業拡大のために「扇奥羽丸」を就航させ、12月には宮崎県北部の倉庫拠点集約と庫腹拡大を目的とした「日向PDセンター」を開設いたしました。また、1月には北海道全域の物流事業拡大のために「北広島PDセンター」を開設しております。

当第3四半期の業績としましては、震災の復旧需要をはじめ、災害関連商品や節電関連商品などの既存物量が増加したことや、9月に「株式会社スマイル」をグループ会社としたこと、新規顧客の積極的な開拓を行ったことなどにより、連結営業収益は2,006億20百万円と対前年同期比10.2%の増収となりました。一方、利益面におきましては、燃料費の上昇などのマイナス要素があったものの、増収効果とコスト改善効果により、連結営業利益は69億23百万円と対前年同期比30.0%の増益、連結経常利益は67億60百万円と対前年同期比25.5%の増益となりました。連結四半期純利益につきましては、法人税率の引き下げに関する法律が公布されたことを受け、繰延税金資産の取り崩しを行いました。27億69百万円と対前年同期比0.5%の増益となりました。

当第3四半期の業績をセグメント別にご説明いたしますと、次の通りです。

(物流事業)

住宅物流事業においては仮設住宅などの震災復旧需要、流通ロジスティクス事業においては、復旧に関わる住関連商品や節電関連商品や暑さ軽減商品などの既存物量の増加、さらには新規顧客の積極的な開拓による売上拡大などがあり、事業収入は1,680億25百万円と対前年同期比4.9%の増収となりました。

(商事・貿易事業)

株式会社スマイルのグループ会社化、石油価格の上昇による石油販売事業の売上増加、株式会社丸藤の売上拡大及び貿易事業の拡大により、事業収入は303億68百万円と対前年同期比53.3%の増収となりました。

(その他事業)

事業収入は22億26百万円と対前年同期比5.1%の増収となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

(総資産)

当第3四半期末における総資産は2,011億91百万円となり、前期末に比べ239億7百万円の増加となりました。これは受取手形及び営業未収入金が105億33百万円、たな卸資産が36億59百万円、有形固定資産が90億95百万円増加したことなどによるものです。

(負債)

当第3四半期末における負債の残高は1,390億41百万円となり、前期末に比べ223億61百万円の増加となりました。これは支払手形及び営業未払金が116億85百万円、社債が50億円、長期借入金が76億92百万円増加したものの、短期借入金が17億1百万円減少したことなどによるものです。

(純資産)

当第3四半期末の純資産は621億50百万円となり、前期末に比べ15億45百万円の増加となりました。これは利益剰余金が13億85百万円増加したことなどによるものです。自己資本比率は前期末より3.3%低下し、30.0%となりました。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

今後の日本経済は、震災復興関連需要の顕在化に伴って緩やかな回復経路を辿ると思われませんが、本格的な回復にはまだ時間がかかると見られ、今後も厳しい状況が続くと思われま

す。このような環境の中、当社グループは、中期経営三ヵ年計画の2年目の年として、グループの総力を結集し、社会との共生を図り、従業員の成長志向を育む中、高品質でコストパフォーマンスの高いサービスを、グローバルに提供する、流通情報企業を目指してまいります。

当期の業績予想につきましては、ほぼ計画通りに推移しており、連結営業収益、連結営業利益及び連結経常利益は10月に発表いたしました予想数値から変更はありません。連結当期純利益につきましては、法人税率の引き下げに関する法律が公布されたことを受け、繰延税金資産の取り崩しを行い、法人税等調整額が増加することなどにより、連結当期純利益を修正いたします。

なお、配当金の金額につきましては、前回発表いたしましたとおり、1株あたり12円(中間6円、期末6円)から変更はありません。

	営業収益	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	270,000	8,150	8,000	3,750	29.81
今回修正予想(B)	270,000	8,150	8,000	3,200	25.44
増減額(B-A)	-	-	-	550	-
増減率(%)	-	-	-	14.7	-
(ご参考)前期実績 平成23年3月期	241,046	6,099	6,375	2,261	18.44

2. サマリー情報(その他)に関する事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動
該当事項はありません。
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用
該当事項はありません。
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成23年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	14,394	12,642
受取手形及び営業未収入金	31,147	41,680
商品及び製品	719	4,125
販売用不動産	15	3
仕掛品	104	358
原材料及び貯蔵品	176	187
その他	6,304	5,457
貸倒引当金	29	51
流動資産合計	52,833	64,404
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	36,962	44,565
土地	39,233	39,623
その他(純額)	10,508	11,610
有形固定資産合計	86,703	95,799
無形固定資産		
のれん	1,028	3,755
その他	3,358	3,577
無形固定資産合計	4,387	7,333
投資その他の資産		
差入保証金	8,719	8,741
繰延税金資産	4,969	4,100
その他	19,897	21,040
貸倒引当金	226	229
投資その他の資産合計	33,359	33,654
固定資産合計	124,450	136,786
資産合計	177,284	201,191

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成23年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び営業未払金	22,603	34,288
1年内償還予定の新株予約権付社債	-	4,900
短期借入金	16,545	14,843
未払法人税等	1,719	857
賞与引当金	2,853	1,985
役員賞与引当金	112	104
災害損失引当金	836	64
その他	9,251	10,836
流動負債合計	53,923	67,882
固定負債		
社債	7,000	12,000
転換社債型新株予約権付社債	4,900	-
長期借入金	32,331	40,023
退職給付引当金	9,724	9,568
役員退職慰労引当金	37	61
特別修繕引当金	39	46
資産除去債務	292	298
その他	8,431	9,159
固定負債合計	62,756	71,159
負債合計	116,679	139,041
純資産の部		
株主資本		
資本金	20,521	20,521
資本剰余金	18,782	18,782
利益剰余金	20,806	22,191
自己株式	1,046	1,048
株主資本合計	59,063	60,447
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2	12
繰延ヘッジ損益	9	64
為替換算調整勘定	31	58
その他の包括利益累計額合計	38	5
新株予約権	107	149
少数株主持分	1,472	1,559
純資産合計	60,604	62,150
負債純資産合計	177,284	201,191

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)
営業収益	182,076	200,620
営業原価	166,115	181,814
営業総利益	15,960	18,805
販売費及び一般管理費	10,633	11,881
営業利益	5,327	6,923
営業外収益		
受取利息	138	123
受取配当金	671	693
その他	454	327
営業外収益合計	1,263	1,144
営業外費用		
支払利息	877	881
その他	325	426
営業外費用合計	1,203	1,307
経常利益	5,387	6,760
特別損失		
固定資産売却損	56	299
特別退職金	74	179
固定資産除却損	159	118
リース解約損	22	30
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	130	-
特別損失合計	443	628
税金等調整前四半期純利益	4,944	6,132
法人税、住民税及び事業税	1,573	1,087
法人税等調整額	690	2,311
法人税等合計	2,264	3,399
少数株主損益調整前四半期純利益	2,680	2,732
少数株主損失()	74	36
四半期純利益	2,754	2,769

(四半期連結包括利益計算書)
 (第 3 四半期連結累計期間)

(単位 : 百万円)

	前第 3 四半期連結累計期間 (自 平成22年 4 月 1 日 至 平成22年12月31日)	当第 3 四半期連結累計期間 (自 平成23年 4 月 1 日 至 平成23年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	2,680	2,732
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	49	4
繰延ヘッジ損益	14	83
為替換算調整勘定	27	33
持分法適用会社に対する持分相当額	5	3
その他の包括利益合計	69	41
四半期包括利益	2,611	2,774
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,696	2,804
少数株主に係る四半期包括利益	85	30

(3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(4) セグメント情報等

前第3四半期連結累計期間(自平成22年4月1日至平成22年12月31日)
報告セグメントごとの営業収益及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	物流事業	商事・貿易 事業	その他事業	計		
営業収益						
外部顧客への営業収益	160,141	19,815	2,119	182,076	-	182,076
セグメント間の内部営業収益又は振替高	529	6,458	2,803	9,790	9,790	-
計	160,670	26,273	4,922	191,866	9,790	182,076
セグメント利益	4,632	396	375	5,404	77	5,327

(注)1. セグメント利益の調整額 77百万円には、セグメント間取引消去 9,790百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用 9,713百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第3四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年12月31日)

1. 報告セグメントごとの営業収益及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	物流事業	商事・貿易 事業	その他事業	計		
営業収益						
外部顧客への営業収益	168,025	30,368	2,226	200,620	-	200,620
セグメント間の内部営業収益又は振替高	525	7,733	2,372	10,631	10,631	-
計	168,551	38,101	4,599	211,252	10,631	200,620
セグメント利益	5,711	837	501	7,049	125	6,923

(注)1. セグメント利益の調整額 125百万円には、セグメント間取引消去 10,631百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用 10,506百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとののれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

「商事・貿易事業」セグメントにおいて、新たに株式を取得した株式会社スマイル及びその子会社3社を連結の範囲に含めております。なお、当該事象によるのれんの増加額は、当第3四半期連結累計期間においては2,839百万円であります。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。